

編集後記

*第九号を発刊することができた。御多忙の中、御協力いただいた執筆者の皆様にご心より御礼申し上げます。

*本年は、一つ合評会などを開いて、互に専門外の論文に挑戦し、忌憚のない意見交換など試みてはいかがであらうか。

*また、次号は、少しはやめに編集準備を開始し、共通テーマ（例えば「老」など）で特集号を編んでみたいとも思っている。御意見をお寄せいただきたい。

*経営学部内の人文科学系教員の研究発表誌としての本誌の存在意義は、小さくないと思われる。今後とも、メンバーの真摯な学問的努力によって、より充実した論文を掲出し得るべく努力を重ねなければならぬまい。研究の基盤があつての教育である。大学という場での教育には、ごまかしのスタンダードプレーは許されまい。

*我がメンバーの一人坂本恵氏は、国語審議会委員として活躍。外部への発信は、大いに同慶すべきこと。

*鬼ヶ城は、執筆時期が東京大学大学院総合文化研究科博士論文（論文博士）審査委員としての論文審査期間と重なったために、小エッセイでお茶を濁す結果となり、大いに反省。他の諸氏の論文はいずれも力作揃い。御注目を。

*人文科学系の論文の発表を希望されている教員の皆様は、奮ってメンバーに加わっていただきたい。遠慮なくお申し越しを。門戸は開放されているので、是非、是非。

（鬼ヶ城）

会 員 名 簿

榎	本	誠
大	場	明
小	澤	夫
加	藤	薫
金	谷	夫
坂	本	恵
野	間	正
廣	田	子
復	本	郎